

# 世界の先頭を走るポンプ・タービンメーカー。 IT人材でさらなる加速へ。

株式会社シンコー / 船舶機械等製造



## 課題・ニーズ

ポンプ、タービンの専門メーカーとして、その品質と世界規模のアフターサービスで世界のトップを走ってきたが、次の時代においても勝ち抜いていくためには、ITに強い人材が必要だった。

## 人材獲得と成果

地元大学院で船舶や機械の知見も学びながら、首都圏のIT企業で経験を積んだUターン人材を獲得。社内のネットワークからセキュリティを含めたシステム全般を細部に至るまで支えている。



代表取締役社長  
筒井 幹治

世界トップシェアの品質とサービスには、  
時代に先んじるDNAが息づいている。

広島湾にほど近い場所に本社と工場を構える、株式会社シンコー。ポンプ、タービンの専門メーカーとして世界シェアナンバーワンを誇っている。1950年代半ばにはすでに船舶用ポンプの国内トップメーカーだったが、タービンについては欧米の技術に遅れをとっていた。しかし、当時は別々のメーカーが製造することが当たり前だったポンプとタービンを自社で一貫生産すべきと判断。タービンを自社開発して一体型製品を作り、大きくシェアを伸ばしていった。またクリーンエネルギーの需要増を見越してLNGポンプの開発にも力を入れた結果、船舶用LNGポンプは世界シェア85%を叩き出す。品質とアフターサービスの評価が高いシンコーだが、その背後には、時代に先んじて一手を打つDNAがある。

IoT、ネットワーク、セキュリティ。  
来る変化を見据えIT人材の拡充に力を入れる。

これからの時代を見据えるとIT人材の拡充が必要と考えたシンコーは、広島大学大学院で船舶や機械などを学びながらも、造船不況の折、千葉県でIT企業に就職した生野氏と出会った。「結婚に際して広島への移住を決め、今こそ造船に関わる仕事がしたいと迷わず決めました」と同氏。現在は社内のネットワークからセキュリティを含めたシステム全般を管理している。シンコーでは自社の製品にIoT技術を導入し、トラブルを事前に予知・予防するメンテナンスシステムの構築に成功しているが、今後益々、IT人材の必要性は高まっていく。まさに、シンコーの次なる一手が注目される。



生産管理本部課長  
生野 真一

## 株式会社シンコーとは



1938年に合金鋳造工場として創業した株式会社シンコーは、戦後はまず船舶用ポンプで頭角を現していく。原油タンカー用のカーゴオイルポンプは駆動用タービンと一体化して設置されるが、同社が国内トップ船舶用ポンプメーカーとなっていた1950年代半ば当時は、ポンプとタービンの両方を製造するメーカーは限られていた。そのため別々のメーカーが製品を持ち寄り船上で組み合わせていたが、実際に稼働させてみると不具合も多かった。そこに商機を見出した同社は、ポンプ・タービン一体型製品を自社で一貫生産。「他の国内メーカーと同様、欧米勢に技術面で遅れていたタービンも、ライセンスの問題などが絡む技術提携ではなく、自社開発したのも功を奏した」と代表取締役社長の筒井氏。納入前に自社工場で性能試験を行うことによる高い品質、世界各地で24時間以内にトラブル等に対応するアフターサービスも顧客から絶大な信頼を得、原油タンカー用カーゴオイルポンプと駆動用タービンは世界シェア80%、船舶用LNGポンプは世界シェア85%まで拡大した。またロングスパンの運用が求められる自社の機器にIoT技術を導入、重大なトラブルが起きる前に部品交換・修理を行うサービスで、さらに顧客からの評価が高まっている。「顧客最優先」をフレキシブルに実践し、力強く前進を続けている。

企業情報  
株式会社シンコー

所在地：広島市南区  
設立：1938年  
従業員数：518名  
資本金：1億円

## 広島県プロフェッショナル人材戦略拠点

TEL (082) 513-3428 (ダイヤルイン) FAX (082) 222-5521 MAIL syojinzai@pref.hiroshima.lg.jp

住所 〒730-8511 広島市中区基町10番52号 商工労働局 産業人材課内

HP <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/pro-kyoten/>